

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570812362		
法人名	医療法人 長慶会		
事業所名	グループホーム 桜木荘		
所在地	秋田県大仙市協和船岡字上宇津野249-1		
自己評価作成日	平成30年9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成30年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

思いやりの心を大切に、一人ひとりのこれまでの生活や習慣を知り、残された力を引き出しながら、運動が好きな方、家事仕事が好きな方、それぞれが得意なことや馴染みのある暮らしを送ることで自信と安心へとつなげ、その人らしい生活が継続できるよう個別ケアに力を入れ取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

重度の利用者が多くなってきている中、自分たちが何をすべきかを職員間で話し合い、ここで暮らす利用者に寄り添って安心できる環境づくりに努めており、さまざまなアイデアを出して日常のケアに取り込み、介護計画にも反映させています。近隣の方々とは開設当初から馴染みの関係にあり、運営推進会議においても地域との繋がりが継続できるように努めています。認知症カフェ開催日には地域住民の送迎をしていただいております、利用者は参加者とも馴染んで毎月会えるのを楽しみにしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を職員一人ひとりがしっかりと認識し、地域密着型サービスとしての意義と誇りをもち、地域に貢献できるような努めている。	利用者が安心して暮らし続けるために何が大切かを考えて実践し、地域向け広報でもお知らせして理念が具現化できるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月の認知症カフェ(お茶の会)や地域行事の花火大会、梵天、運動会への参加。地元の保育園児やボランティアによる慰問などを通じて交流を深めている。	開設当初から近隣との繋がりが強く、認知症カフェ開催日には地域住民の送迎に協力していただく等、利用者と地域の方との交流を大切にしたい取り組みが行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症カフェ(お茶の会)の中で、認知症の方の上手な接し方を寸劇や講師を招き学ぶ機会をつくっている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価や改善に向けての取り組みについての報告。介護研究での発表により事業所の課題や現状を知ってもらう場としても活用している。 防災や食中毒対策等についても助言や意見をいただきながらサービスの向上に活かしている。	参加者に意見を出していただけるように進行の仕方に工夫し、事業報告だけにとどまらず、災害対策や認知症カフェの開催等、さまざまな課題について意見交換し、サービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	暫定中での入居の受け入れ方法や介護保険の対象区分、家族からの相談などその都度分からない時は相談や助言をもらっている。 認定調査の際には、入居者の暮らしぶりなど事業所の実情を伝える機会が増えてきた。	運営推進会議でホームの取り組みを伝えている他、認知症カフェの開催についても相談、助言が得られており、連携を深めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度4月より身体的拘束等適正化委員会を設け、事業所全体で拘束等に関する正しい知識を学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	適正化委員会を定期的に開催し、毎月のケア会議でも利用者の状態を話し合っって身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のケア会議には虐待と思われる行為がなかったか確認と現状の把握に努め、年1回は内部研修にて、自己を振り返る場として学習し、虐待が見過ごされないよう努めている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括による出前講座にて、権利擁護の制度について学んだことがあった。以前は、制度を利用している方が入居していた為、身近で学ぶ機会も出来た。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の締結、解約または改定時には文章をもとに十分な説明を行い、本人や家族からの質問等に対しても、理解や納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や日常の何気ない会話の中で入居者や家族からの意見や要望を引き出しまた、運営推進会議では話しやすい雰囲気づくりに心掛け、より多くの意見や要望を出してもらえよう努めている。	苦情が出た場合には委員会を通じて対応を検討することになっています。気軽に話しができる関係づくりに努め、ケアに関する要望等を反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より現場の状況の把握に努め、代表者への報告や定期的の会議や各委員会を通し職員の意見や提案を聞く機会を設け運営に反映できるよう努めている。	職員の意見、要望は管理者を通じて法人に伝えられています。利用者との日常的な関わりの中での気付きやアイデアを検討し、運営及びサービスに反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や日頃の実績を把握し職員処遇の反映や向上心を持って働けるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会を確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、外部研修を受ける機会の確保や内部研修以外にも年1回、事業所内で研究発表を行い働きながら技術や知識を身につけられるよう職員育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加にて、同業者と交流する機会があり、各事業所での取り組みや情報交換によりサービスの質を向上につながるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学の時点から本人が困っていることや不安なこと、要望等に耳を傾け安心していただけるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談の時点から家族等の悩み不安なこと、要望に耳を傾けしっかりと受け止めながら、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	シーツ交換や食事テーブル拭き、モップかけなど本人と一緒にいき、入居者一人ひとりの個性や力を発揮できる場面をつくりながら共に過ごし、学び、支え合う関係を築けるよう努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族、双方の思いを受け止めながら共に支え合うことの大切さを伝えながら良い関係を築いていけるよう努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの床屋に出掛けたり、かかりつけの病院への受診。毎月の認知症カフェで来苑される地域の方などこれまで大切にしてきた馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	認知症カフェを通じて家族や地域住民との馴染みの関係が継続できるよう取り組んでいます。長く入居している方もおり、一人ひとりの力を活かして楽しみながら続けられることを工夫し、ホームでの生活を支援しています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	寝たきりの方に対しても声をかけてくれたり手を握ってくれるなど入居者同士が関わり合い、支え合えるような場面や支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りまで関わらせていただいた家族がホームに足を運んで下さったり、入院し、退居された後も家族から相談を受けたりとこれまでの関係性を大切にしながら支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向に耳を傾け、その人らしい生活を送ることが出来るよう支援に努めている。	職員は利用者によく声をかけており、その思いを聞き取って暮らし方の意向を汲み取るようにしています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からサービスの利用にあたって必要な情報を提供していただきながら生活歴や生活習慣、生活環境等の把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態、有する力等職員間で情報を共有し現状の把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向に沿いながら職員間で話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のケア会議で職員の意見交換が行われています。家族の要望も介護計画に反映させています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿って実践と結果の記録や日常の中での様子や気づきを介護記録に残し職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や馴染みの床屋、地域ボランティア、保育園児の慰問など本人の心身の力をできるだけ発揮しながら安全でより豊かな暮らしを楽しめるよう地域資源を把握し支援に努めている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により専門医療機関への受診を継続的に受けられるよう支援している。また、主治医を中心に協力医療機関との関係を築きながら適切な医療を受けられるよう努めている。	本人、家族の希望に沿って対応しています。運営母体の医院に限らず、他の医療機関とも協力関係が築かれ、適切な支援が行われています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師による月2回の訪問以外にも随時、相談がある際は訪問看護師へ状態を伝え指示を仰いだり、医師と連携を図り適切な受診ができるよう支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は、本人も家族も安心して治療できるよう協力医療機関の関係者との情報交換や相談に努め対応している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に入ってから、本人・家族に迷いや気持ちの変化が見られる際は、主治医を含めその都度話し合いを重ね、十分な理解と納得のもと、最期まで最善を尽くし支援に取り組んでいる。	昨年は4例の看取り支援が行われています。利用者の状態に応じてその都度家族と話し合い、家族の悩みにも寄り添って随時意思を確認しながら意向に沿えるよう支援しています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故があった後には初期対応は適切だったか、スムーズに連携が図れたかなどを振り返り、マニュアルの再確認と見直しを行い、いつでも実践できるように備えている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実際に指定された地域の避難場所へ車で避難誘導を行った。予期せぬ事態にも冷静に対応できるよう、地域との協力体制を強化していきたい。	指定避難場所への避難訓練では環境改善を行政に働きかけています。水害時の職員体制等、検討すべき事項があり、マニュアルの見直しを行っています。	運営推進会議での意見や訓練の反省を活かし、安全に避難できる体制づくりと訓練の積み重ねを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や個性を尊重し、誇りや自信を持って暮らし続けられるよう、個々に合わせた言葉かけや対応を心掛けている。	入浴や排泄、寝たきりの方等、一人ひとりに合わせた声かけや介助を心がけています。利用者同士の会話にも気を配り、その関係性も大切にケアに努めています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	上手く言葉や意思表示ができない方に対しても表情から察しながらまた、言葉を引き出す工夫により本人の思いや希望をくみ取り、自己決定の支援に努めている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活スタイルを大切にし、本人を中心とした一日の過ごし方を柔軟に対応できるよう努めている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と一緒に外出着を選んだり、指輪やブレスレットなどを身につけおしゃれを楽しまれている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に、おかずの盛り付けや食器洗い、食事を共にすることで食事を楽しむことのできる支援に努めている。	食前に嚥下体操を行って誤嚥予防に努めています。食べたいものを聞いたり、季節の行事食を提供したりして楽しみに繋げています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給に努め、体重の増減や尿量の把握、一人ひとりの好む飲み物や食べ物など食生活や習慣に応じて対応している。食事に偏りが見られる場合は、看護師や主治医へ相談し指示を仰いでいる。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいの出来ない方に対してはガーゼで拭き取り口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。また、一人ひとりの力に合わせ、排泄動作の一部を手助けし自立に向けた支援を行っている。	個々のパターンに応じてポータブルトイレの使用やトイレ誘導が行われ、失禁が軽減できるよう努めています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や歩行運動、寝たきりの方にはボールをキャッチしてもらい、腹筋を使う機会をつくるなど、個々に合わせた体操を行い腸の働きを助け、便秘予防に取り組んでいる。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりのその日の健康状態や本人の意向に合わせ、気持ちよく入浴ができるよう支援している。	入りたくないという利用者が多いものの、それぞれの希望に応じられるよう工夫し、週2回の入浴を確保して清潔保持できるよう支援しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時の状況に応じて休息を促している。また夜間は個室の為、不安にならないよう臥床するまでそばで見守りゆっくりと安心して休めるよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容と照らし合わせながら薬の目的や効能、副作用の把握と理解に努めている。また、症状に変化や気になる点がある際は主治医、看護師または、薬剤師に相談し対応している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケ、塗り絵やちぎり絵、洗濯干し、山菜等の皮むきなど一人ひとりの生活歴や力を生かし、役割や楽しみごとを通して喜びや生きがいにつながるよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は散歩がてら、地元の商店等での買い物や郵便局まで出掛けたりしている。地域の方々が、声をかけてくれる為、散歩が楽しみの一つとなっている。また、家族の協力により外出や外食の機会もつくり出されている。	遠出をすることが少なくなりましたが、周辺を散歩したり、園庭で過ごす時間をつくったりして外気に触れる機会をつくっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持され、自分で買いたい物を選んで買ったり、買い物に依頼されるなど職員は本人がお金を持つことの大切さを理解し支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方以外の入居者もいつでも家族へ電話ができるよう支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じられるよう棟内を季節の花で装飾している。天井は高く、廊下は広い為解放感がある。大きな窓からはたけのこや栗の木、桜、田んぼが見え外の景色を楽しむこともでき、静かでゆっくりとくつろげる環境である。	利用者の席やソファの配置に配慮し、廊下にもソファを置き、好きな時にテレビを見たり、好みの場所で過ごせるよう共同生活が楽しく送れる工夫をしています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	棟内にはソファを設置し、テラスにはベンチを置いている為、好きな時に一人でテラスで外の風を楽しむ方や気の合う入居者同士で会話を楽しむなど自由に過ごせる居場所の工夫をしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族と相談しながら使い慣れた物や家具、旦那様との思い出の写真などを準備し本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族が定期的に部屋の花を交換したり、利用者が自分好みの飾り付けをしたりして落ち着いた暮らしが継続できる環境づくりが行われています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な箇所には手すりを設置し、一人でも目的の場所へ移動が出来るよう居室やトイレには目印をつけるなど、安全でかつできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		